

2019. 12. 31.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：令和2年1月7日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《12月のおはなし会で使った本》

『かみなのに』 たにうちつねお/さく 大日本図書 2019

『てぶくろ』 エウゲーニー・M・ラチョフ/え 福音館書店 1965

『クリスマスのかくれんぼ』（大型絵本） いしかわこうじ/作・絵 ポプラ社 2019

『みつごのこぶたのクリスマス』（紙芝居） はせがわさとみ/脚本 童心社 2013

★図書館と出会う読書活動「ライぶらり」フォーラム

○日時：令和2年1月24日（金）13：00～16：50 ※希望者のみライぶらり体験11：00～11：40

○場所：山口県立山口図書館 レクチャールーム

○対象：公共図書館職員、子ども読書ボランティア、教諭、司書教諭、学校司書、学校図書館担当事務職員、県市町教育委員会指導主事、学校図書館関係者等 ○定員：100名（要申込み・先着順）

○申込方法：令和2年1月10日（金）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

○申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『ふとんがふっとんだ』 新井洋行/作 講談社 2019.10 ¥1100

「ふとんが…ふっとんだ」「いるかは…いるか?」「カレーが…かれえ」「ねこが…ねこんだ」「クレヨンたち…やめてくれよん」思わず声に出して言ってみたくなる、楽しいだじゃれのオンパレード。黄色いふとんの中からいろいろなものが出てくるよ！最後にふとんの中にいたのはだあれ？にこにこ顔、びっくり顔のふとんの表情もユニーク。みんなで楽しめるおもしろだじゃれ絵本。

<絵本-5、6歳から>

『とおくにいるからだよ』 くりはらたかし/作・絵 教育画劇 2019.10 ¥1100

「アハハ！むこうにぼくよりちいさなカタツムリがいる！」アリが笑うと、「とおくにいるからちいさくみえるんだよ」とカタツムリ。カタツムリより小さなネズミ？ネズミより小さなネコ？イヌより小さな飼い主のタロウくん？いやいや、遠くにいるから小さく見える。でも時には本当に小さい、ということも。モノの大きさと遠近感の不思議な感覚を描いた楽しい絵本。

『スモンスモン』 ソーニャ・ダノウスキ/文・絵 新本史斉/訳 岩波書店 2019.10 ¥1800

ゴンゴン星に住むスモンスモンは、ロンロンをとりにつんとんで川を下り、途中でストーンストーンを運ぶクロンクロンに出会い…。耳に楽しい繰り返しの言葉で名付けられたものたちが、不思議な世界へと誘う。芸術的な絵と言葉の面白さが癖になるドイツ作家の邦訳絵本。ドイツの子ども審査員が選ぶ絵本賞受賞、ミュンヘン国際児童図書館の「ホワイト・レイヴンス」他にも選ばれる。

<絵本-小学校低学年から>

『まちがいまちによこそ』 斉藤倫/さく うきまる/さく 及川賢治/え 小峰書店 2019.10 ¥1400

いよいよ今日は引越。お父さんとお母さんと犬のころと僕は、これから新しく住む「まちがいまち」にやってきた。この町はいろいろなものがまちがいだらけ。「はなばたけ」が「あなばたけ」だったり、携帯電話が兵隊電話だったり、回転寿司が回転武士だったり。思わず笑ってしまう言葉遊びと、はちゃめちゃな世界を表現した絵が楽しい、ナンセンス絵本。

<絵本-小学校中学年から>

『の』 junaida/著 福音館書店 2019.11 ¥2000

わたしの/お気に入りのコートの中の/ポケットの中のお城の/いちばん上のながめのよい/部屋の/王さまのキングサイズのベッドの…。右のページには言葉、左のページには細かく美しい色彩で描きこまれた画。「の」という言葉でつながれて、ページをめくるたびに空想の世界に導かれ、物語の世界に入り込んでいく。絵本でもあり、画集でもある子どもにも大人にもおすすめの美しい絵本。

<読み物-小学校低学年から>

『ネコ魔女見習いミルク 真夜中の冒険』 ポーラ・ハリソン/作 ジェニー・ラヴリー/絵 田中亜希子/訳 小学館 2019.10 ¥1000

キャットジャンプにキャットアイ。ネコみたいぬすごい力のキャットパワーをもつ女の子ミルクは、ママみたいに人助けをするネコ魔女になるため見習い中。ママが留守のある晩、ネコのソックスに、時計台の上から恐ろしい声がかかるからどうにかしてと、頼まれたミルク。夜は怖くてたまらないが、勇気を出して時計台に近づいてみると…。「ネコ魔女見習い」シリーズ第1話。

<読み物-小学校中学年から>

『ハンカチともだち』 なかがわちひろ/作 アリス館 2019.11 ¥1400

ある朝、慌ただしく学校に出かけたはるちゃんが持っていたのは、見たことない小人の絵のついたハンカチ。しかも、その小人は動いている！はるちゃんは気になって、手を洗っても給食がこぼれても、このハンカチを使うことができない。クラスメイトのミヨンちゃんも大事なハンカチを持っていると言い、お互いに見せ合いっこすると…。しっくりこない二人の気持ちがふっとつながる温かいお

話。

<読み物—小学校高学年から>

『希望の図書館』 リサ・クライン・ランサム/作 松浦直美/訳 ポプラ社 2019.11 ¥1500

母が亡くなり父とアラバマからシカゴへ越してきたラングストン。黒人は図書館へ入れてもらえないと母は言っていたが、シカゴの図書館は、自分のことを丁寧に迎え入れてくれた。学校では南部のいなかもんとからかわれ、家ではお母さんのいない寂しさを感じていたラングストンは、下校時に図書館へ通うように。読書の喜びを通じて、小さな自信と生きる勇気を手に入れていく物語。

『今、空に翼を広げて』 山本悦子/著 講談社 2019.10 ¥1500

小1の翼は、母親と曾祖母の3人暮らし。曾祖母が認知症を発症したため、一人で家に置いて出かけることができなくなり、学校を休むようになる。心配した同じ登校班のメンバーたちは、翼を迎えに行くが、頑なに家から出てこようとしない。翼のために、私たちにできることはないのだろうか。メンバーそれぞれの立場で書かれた10章で構成された長編。

『あした、また学校で』 工藤純子/著 講談社 2019.10 ¥1400

弟が長縄とびの朝練に来なかったことを、担当の先生にこっぴどく叱られていたと、小6の一将に教えてくれたのは幼馴染みの咲良。弟はそれから学校へ行くことができない。これって、先生のせいじゃない？この状況を、兄の一将は、友人の咲良は、一将の母は、そして先生はそれぞれどう考えているのか。「学校はだれのものか」をそれぞれの立場で考えさせるお話。

<読み物—中学生から>

『星くずクライミング』 櫻崎茜/作 くもん出版 2019.11 ¥1300

色とりどりのホールディングに惹かれ、小4からスポーツクライミングに夢中だったあかりは、決勝戦での怪我のあとやる気を失っていた。そんな時、視覚障害者のブラインドクライミングのボランティアに誘われ、同じ中1の昂のナビゲーターをすることに。我儘な昂に腹を立てながらも目の見えない世界のことを少しずつ理解し、2人でパラクライミングの大会に挑む。綿密な取材に基づいた作品。

『フラミンゴボーイ』 マイケル・モーパール/作 杉田七重/訳 小学館 2019.10 ¥1500

フランスの南部、フラミンゴの生息地カマルグで、フラミンゴや動物たちと一体となって成長してきた自閉症の少年と、その街にやってきたメリーゴーラウンドを生業とするロマの少女。第2次世界大戦の末期、ナチスが侵攻してきたフランスで二人が体験した切ないけれど優しい友情の物語を、旅のイギリス青年に語る。イギリスの児童文学界を代表する作家が描く、心に響く温かい物語。

『この海を越えれば、わたしは』 ローレン・ウォーク/作 中井はるの、中井川玲子/訳 さ・え・ら書房 2019.10 ¥1800

生まれてすぐ小舟で海に流された少女クロウは、過去を捨てて島に住み着いた男に拾われ、近所に住む女性とともに愛情深く育てられる。しかし、島民はクロウがハンセン病の療養所があったペニキース島から来たのではと、彼女に触れようとしない。12歳になったクロウは自分のルーツを知る決心をし…。謎解きや宝探し、サスペンスの面白さも兼ね備えた、勇敢な少女の自分探しの物語。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『あいうえあそぼうとしゃかんで』 草谷桂子/ぶん スギヤマカナヨ/え 子どもの未来社 2019.10 ¥1500

「ただですよほんをよむのも かりるのも」「きちんともどそう ラベルはほんの じゅうしょだよ」「レファレンス なんでもきこうししょさんに」小さな子どもたちに、図書館がどんなところかをわかりやすく伝える、カルタ形式の本。巻末には、より詳しい情報を掲載。営利目的でない場合に限り、著者・出版社に許可をとらずにコピーして使用できる。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『マークの図鑑』 児山啓一/監修 小学館 2019.11 ¥1900

人に伝えたい情報を、文字ではなく絵や図で表現し、言葉や文化が違って伝えることができるのがマーク。JISに登録されたピクトグラムなど、身のまわりのマーク・記号を1400個以上掲載した調べ学習に役立つ図鑑。2020東京オリンピック・パラリンピックの全競技のピクトグラムや、山口県立山口博物館の館内案内マークも掲載。3学年国語科で使用できる。

『SDGs めまっち式アクション100』 沼田晶弘/監修 鈴木出版 2019.10 ¥3000

「今の地球が抱えている問題を解決して、ずっと未来が続くようにしよう」と決められた世界共通の目標「SDGs」。難しく考えず「持ち物マーキング」「学校ピカピカ作戦」など、自分たちでも楽しみながらできることがあるよ。目標に取り組むさまざまなアクションを、イラストや取り組み時のコツとともに紹介。①学校編②まち編③家族編の全3巻。SDGs入門に適したシリーズ。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『国谷裕子とチャレンジ!未来のためのSDGs』 国谷裕子/監修 文溪堂 2019.11 ¥3200

未来のあるべき姿をもとに、今から何をしなければいけないのかについてみんなで考えようとする約束「SDGs」。この17のゴールを「人間」「豊かさ」「地球」「平和」「パートナーシップ」に分け、ゴールの概要説明、ニュースの解説、実際の取り組み紹介の3ステップで分かりやすく解説。「だれでもできるSDGs」欄では子どもでもできる取り組みやヒントを紹介。全4巻。

<ノンフィクション—中学生から>

『部活で差がつく!勝つ弓道上達のポイント50』 高柳憲昭/監修 メイツ出版 2019.10 ¥1540

弓道初心者のための道場でのマナーや道具の選び方、行射の基本動作となる射法八節、部を強くするための取組、競技会の基本、Q&Aなど、伝統校の名指導者が上達のポイントを丁寧に教える。すべてカラー写真やイラストを使って説明され、ダメな例と比較している点もわかりやすい。『部活で大活躍できる!弓道最強のポイント50』(2012年刊)の改題、加筆修正。

<研究書>

『学校司書研修ガイドブック 現場で役立つ23のプログラム』 学校図書館まなびの会/著 玉川大学出版部 2019.10 ¥2000

学校司書がその専門性を高めるため、月1回程度、1年間にわたって実施することを想定した研修プログラムを示す。新任者研修、資料の構築、ブックトークや読み聞かせ、オリエンテーションと読書指導などについて、自主的な学びの場でも使えるよう内容の詳細な解説やワークシートなどの資料も多数収録。現場で活躍する人々たちによる実践的、実務的な内容で研修に役立つ。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。